



えいのまる

親子清掃でピッカピカ

5月27日(土)の学習参観は、たくさんのご参加ありがとうございました。久しぶりの一斉の学習参観で多くの保護者が集い、活気に満ち溢れました。子どもたちもいつもより、とても張り切って学習していました。

そして、親子清掃では、どのくらい保護者の参加があるか不安なままのスタートでしたが、ご両親とも残ってくださった方も多く、教室や廊下があっという間にきれいになりました。

今回のイベントは、親子で作業しながら保護者同士が知り合うこと、会話をしながら相手を知ることを中心とした清掃活動でしたが、「懇談会よりもリラックスして話が弾んだ」と言われる方もたくさんおられてよかったですと思いました。

今後も、こうした交流しやすいイベントを企画して、もっと皆が気楽にワクワクいっしょに子育てできるようになるとよいと思います。今後も保護者同士や学校との連携が取れるよう、務めてまいります。



◎プール学習が始まります

昨年度は、コロナ禍でプール学習は水慣れの時間で、時数も指定水着の設定も低めでした。今年は本格実施となり、水着、帽子等の指定をコロナ前に戻しています。

下記事項、ご確認ください。

- ① プールカードに保護者印がないと入れません！
印を忘れないように！
- ② 電話連絡しても入れません。カードを忘れないように！
- ③ 見学者も体操服に着替えます。体操服準備を！
- ④ ゴーグル・ラッシュガードは使用可となりました。
 - ・ゴーグルの調整は家庭で。
 - ・フードのないラッシュガードで。
 - ・日焼け止めはウォータブルのみ可。

◎留守番電話対応時刻が変わります

教員の業務負担軽減のため、全市的に学校の電話の留守番電話対応時刻が変わっています。6月からは、下記の通りになります。

留守番電話対応→夕方17時から朝8時まで

この時間帯は、電話での応答ができなくなりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

◎ホンモノの芸術と出会い

本館1階に、ホンモノの巨大アートが展示されました。「小学校時代にホンモノの芸術に出会わせたい」という本校と作家の皆さんの思いが重なり、行動大分作家協会の皆様の好意で、長期のギャラリー&トークショーが実現しました。保護者の方もどうぞ立ち寄り鑑賞してください。



子育て応援 シリーズ

～校長の独り言～

親業に学ぶ子どもとの接し方

近藤千恵 著 新紀元社より

「早くしなさい」
「言われたことをちゃんとできなきゃダメでしょう」
など、子どもに1日何回口出しているでしょうか。

どうしてこんなにいらいらしながら生きているのか。
どうして子どもが思うように育たないのか。
と、ふと虚しさに襲われることはありませんか？

一体、どうしたら安心して子どもを育てることができるのでしょうか。

子どもは親が育てていますが、育つのは子ども自身です。子ども自身が自分で育つ力を持ち、幸福になっていく力と責任を持っているのです。

本書は、子どもの自立の芽をつぶさないように、親が日常生活の中で何ができるかを、具体的な例と共に詳しく記しています。

以下、

- ①子どもの心を開く上手な聞き方
- ②子どもの心に届く話し方

に2点について、本書より抜粋・紹介させていただきます。

①子どもの心を開く上手な聞き方

【失敗例】

F「もう、嫌になっちゃうよ。先生は宿題をいっぱい出して！できないよ、こんなにいっぱい」

親「昨日出されたの？」

F「そうだ！」

親「だったらみんなも同じ条件なんだから、僕だけできないってことないでしょ？ガンバッテ！」

F「ウルセーナ、わかってるよ、そんなこと」

裏につづく

失敗例のようにF君を励まそうとした母親の気持ちは、よけいにF君をイライラさせてしまいました。

F君のお母さんは、F君の「ウルセーナ」という言葉を耳にして、「あっ、いけない。こんな対応では」と思い、親業で学んだ対応に切り替えました。

【成功例】

親「先生がたくさん宿題を出したのでイヤになっているのね」
F「……………」

親「あんまり宿題があるとイライラして、手に付かないわよね？」

こんな風に、F君の気持ちを理解していることを示して、あとはF君に任せました。F君は、5分くらいボンヤリしてから、宿題を始めたというのです。

子どもがイライラや悩みがあるときに、親が自分の考え方を押し付けたり、解決策を教えたりするのではなく、子どもの話をじっくりと聞いて、動きを待つ対応です。

【校長独り言】

「子どもに任せたままで本当に宿題を始めなかったらどうしよう」と不安に思う方もおられるでしょう。そんな方は、いきなり大きいことから任せず、小さなことかららせてみましょう。

子どもは親から褒められたいものです。親から信じられて、ニコニコ笑って待たれたら、子どもは自分からよい行動を選択して、行動するに違いありません。

子どもは、困難や嫌なことを乗り越えてたくましく成長します。子どもを困難に立ち向かわせるのは、親の子を信じる心です。

さらに大切なのは、日常的に信じる言葉を口にするということです。そして「やっぱりスゴイ・ステキ」と気持ちをつぶやくことです。

②子どもの心に届く話し方

「あなたメッセージ」を「わたしメッセージ」へ変えよう

8歳男児N君は、毎週土曜日本人から言い出して皿洗いをしてくれませす。しかし、食べた後すぐに洗いません。今日はカレーライスなのに、すぐに洗わないとしみになると母は心配しています。

【失敗例】

母「N君、すぐお皿を洗ってっていつも言っているでしょ！」
「何回言ったらいいのよ！あんたって人は」（あなたメッセージ）
N「……………」

【成功例】

母「N君、カレーライスの皿ってすぐ洗わないと、黄色いしみが皿についてしまうの。お母さん、そうになったら困るの」（わたしメッセージ）

N「そう、じゃ、すぐ洗う」

【母の感想】

「言葉の使い方ひとつで、こんなにも子どもが反発しないで行動に移せるのかと感心しました。言葉の影響ってすごいんですね」

親の思いを語らずに、子どもの行動を批判するのが「あなたメッセージ」です。逆に、私を主語に親の思いや都合を語るのが「わたしメッセージ」です。

親の気持ちを「わたし」を主語にしてそのまま伝えれば、親の考えや思いが子どもに理解されやすくなります。

【父親の例】

疲れて一休みしている父親のところに子どもが、「遊ぼう」と近付いてきました。お父さんはゆっくり新聞を読みたいのです。

【失敗例】「おまえは、うるさい」←あなたメッセージ

【成功例】「おれは、今新聞が読みたい」←わたしメッセージ

自分の気持ちを語れば、親の考えや思いが子どもに理解され、子ども自ら考え、行動するようになります。

【校長独り言】

自分の気持ちを語ることは日本人は苦手。でも困っている状況やしてほしい気持ちを告げられたら「何とかしたい」と思うのが人情。

子どもを一人の人間として尊重し、自分の気持ちを伝え、考えさせることは、子どもを自立させる上で欠かせないことなのです。

ホモに学ぶ

小学生にしか学べないもの。
それは… 感性だ!!



生まれたばかりのホモの心は

透明なんだよ。

舌の先には、ササッとおしりをついて、身を守るんだよ。

山の上の方に行くと、お空がせびる星だらけになるんだよ。

ホモに出会うと子どもは自然と学んで出すんだよ。生かす。

それは10歳くらいまでだから、幼少時にホモにしか学べない

出会ったよ。

採集の生かす力が、ホモから…。

